



全国自転車議員ネットワーク リレー寄稿 No.9

## オリンピック開催を契機とした自転車活用政策の推進 ～江東区議会への提案内容をもとに～

文

江東区議会議員 鈴木 綾子(すずき あやこ)  
公式ウェブサイト：<http://www.suzukiayako.com/>

本ページの担当事務局：特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会 事務局  
〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル4階  
TEL 080-3918-2932 URL <http://www.cyclists.jp/>



誰でも乗れる身近な乗り物として親しまれて来た自転車は、環境負荷が少なく、小回りがきき、健康的な次世代の都市交通として改めて全国的に脚光を浴びている。国や都でも、2020年の東京オリンピックに向け、自転車を公共交通と位置づけ、シェアサイクルの推進や自転車利用環境の整備に力を入れているところである。

江東区では、平成24年11月から他区に先駆けて江東区臨海部コミュニティサイクル実証実験を開始するなど、先進的な取組を行っており、地域住民の日常生活や観光用途での利用が定着している。平成28年2月からは中央・千代田・港の4区で、区境を越えた総合乗り入れ実験が開始され、同年10月には新宿区が、そしてこの1月には文京区が加わり、さらなる自転車の広域利用が図られている。

江東区内においても、コミュニティサイクルの利用可能地域は当初は豊洲地域を中心とした臨海部であったが、平成28年度からは3年かけて区内全域に展開をはかることとなり、区内の回遊性向上や南北交通の不便解消などが期待されているところである。

さらに、2020年の東京オリンピックでは、江東区臨海部に位置する有明地区において、自転車競技

(BMX)の開催が予定されている。

今後、東京オリンピック開催の中心区となる江東区において、日本人も外国人も自転車を快適に利用する環境づくりがより一層求められるという観点から、筆者は自転車活用の先進自治体の視察や議会質問などを通じ、政策提言を行ってきた。本稿では筆者が行った平成28年の江東区議会定例会の議会質問をもとに、江東区の自転車活用政策の現状と課題について論じていく。

### (1) 安全な自転車走行空間の整備とマナー向上について

自転車は、原則車道走行が基本となっているが、幹線道路などでは車道走行に恐怖を感じる方も多く、現状では車道と歩道の両方を自転車が走行し、事故が多発している。子どもやベビーカーが多い江東区臨海部においては、接触事故が発生するなど大変危険な状況となっている。連続した自転車レーンの設置やナビマークなど、自転車と歩行者の空間を分離し、自転車利用者に走行ルールの周知徹底を図ることで安心して歩道を歩ける環境を整備する事が必要不可欠である。東京都においても、臨海部を中心とした自転車推奨ルー

トの設定や、都道や臨港道路の自転車走行空間整備を実施することとしており、都と連携した区内の環境整備を徹底して行うことが肝要である。

江東区では、国のガイドラインに基づき「江東区自転車利用環境推進方針」を策定中であり、平成28年度より、主要区道の自転車通行空間の整備が始まっている。「自転車利用環境推進方針」でも、広域自転車通行ネットワークの早期構築を掲げ、鉄道駅周辺や自転車事故多発地域などのエリアと、これらを結ぶ幹線道路等を整備対象として、面と線の両面からネットワークを形成していくこととなっており、今後のより一層の整備が期待されている。

また、安全な自転車走行空間の整備を実現するためには、マナーの向上も必要である。江東区では、義務教育中の児童生徒については交通安全教室の実施などが従前から行われているが、自転車を通勤通学で多く利用する高校生や成人層については、マナー啓発が手薄となっていた。このことについては、昨年の議会質問で指摘したところであり、江東区では、自転車走行空間の整備とあわせて、新たに高校生や成人層を対象にした自転車教室を実施するなど、自転車ルール、マナーの啓発も強化す

ることとなった。今後の施策展開の充実が期待されているところであり、筆者も推進していきたい。

## (2) 自転車の駐輪環境の整備について

自転車を快適に利用するためには駐輪環境の整備が重要である。

江東区では、放置自転車の撤去や区内20駅の放置禁止区域内の自転車撤去などを実施している。自転車駐輪場の整備にも力を入れているが、駅前や、商業施設周辺などで放置自転車に対する要望は後を絶たず、安全面や景観面に悪影響を与えているのが現状である。江東区においては放置自転車対策により、10年間で70%の削減が実現されているが、放置自転車の根絶には至っていない。

江戸川区や京都市などの先進自治体で進んでいる、タワー型の機械式駐輪場の整備や、商業施設などにおける自転車駐輪場の附置義務の見直し、放置禁止区域の拡大などが必要であると筆者は考え、議会質問を行った。

これらの施策については、江東区でも検討されているところであり、今後の施策の充実を期待している。

## (3) 自転車を活用した観光施策について

自転車走行環境整備にあわせ、コミュニティサイクルの区内全域展開や、中央区、港区、千代田区、新宿区などの総合乗り入れを機に、回遊性が向上し、自転車による観光推進ができる環境も整ってきているところである。

外国人観光客に対する、自転車を活用した、史跡巡りや文化体験、江東区の地域資源である水辺のサイクリングなども取り入れたガイドツアーは、江東区の魅力を外国人が体感できる、着地型観光としても有効であると筆者は考え、議会等で提言してきた。

江東区では、平成27年11月に東京都の地域資源発掘型実証プログラム事業を活用し、NPO法人が外国人向けの船と自転車観光を組み合わせた観光ツアーを実施しており、本区も企画の段階から、東京都及び近隣区と連携を図っている。臨海部のコースでは、日本橋船着場から有明船着場まで船に乗り、その後お台場や豊洲を自転車で回り、深川江戸資料館に立ち寄るなど、東京の未来と江戸の歴史を体感できるとあって、参加された外国人の方々からは大変好評だったとのことである。

江東区観光協会では平成28年9月に、江東区の水辺と自転車を活用した観光プログラムを実施するなど、行政、NPOなど様々な主体を通じた自転車を活用した観光施策が進行中である。

東京オリンピック開催を機に、自転車を活用した観光推進は地域の魅力発見や発信にも繋がっていくと考えられる。今後さらに推進していきたい。

## (4) 自転車政策の専門部署の設置について

自転車に関係する施策は、走行空間整備、放置自転車対策、駐輪場整備、交通安全対策、コミュニティサ

イクルなど多様であり、関連部署も多岐に渡るため、部署間の連携が課題となっている。

大阪府堺市や、さいたま市では、自転車まちづくり部や、自転車まちづくり推進課など、専門部署を設置し、自転車政策に総合的に取り組んでいる。

江東区では、「江東区自転車利用環境方針」を昨年策定し、安全で快適な自転車利用環境を総合的に構築し、施策展開を目指しているところである。自転車を活用した政策をより実効的に進めていくためには、専門部署を設置し、一元的に施策展開を行うべきだと筆者は考えており、昨年の議会質問にて、提言を行った。行政答弁でも、自転車関連施策は多岐に渡ることから、関係部署等が連携して取り組む必要があるとの認識を示した上で、区の関係部署、警察等で構成する「自転車利用環境整備連絡会」の設置について言及している。

この連絡会では、計画の立案、施策の実施、事業改善をPDCAサイクルで進めていくこととしており、まずはこの連絡会を通じて自転車施策を総合的に展開していくとのことである。自転車政策のさらなる推進のためには、行政側の部署間の壁を取り払った全庁的な体制づくりが必要である。

オリンピック開催を契機とした自転車の活用については、区民の方々の意見交換の中でも大きな期待を寄せられている政策課題である。これまでの議会提案については、概ね前向きに進んでいると評価しているが、今後とも国内外の先進事例に学び、自転車政策を積極的に推進していきたい。

PP